

2023 年度 京都大学医療系一回生対象

早期体験実習 報告書

京都大学医学部医学科・人間健康科学科

京都大学大学院薬学研究科

2023 年度 京都大学医療系 1 回生対象 早期体験実習・報告書

もくじ

1. はじめに -----	2
2. 早期体験実習の目的と概要 -----	6
3. 学生による実習プログラム評価 -----	8
4. 受け入れ医療機関からのフィードバック -----	15
5. 実習プログラム案 -----	18
6. 協力医療機関一覧 -----	19
7. 編集後記 -----	20

1. はじめに

早期体験実習Ⅰは、京都大学医学部医学科・人間健康科学科・薬学部の一回生が参加する多職種連携教育として2013年度にスタートしました。今年度も、医療機関及び医療者の皆様のご協力の下、学生たちは未来の医療者の土台形成につながる体験をさせていただきました。お世話になった皆様に、心から感謝申し上げます。

2022年度も、コロナ禍のために病院に伺って学修するという実習形態は断念せざるを得なくなりました。しかし、入学したばかりの学生たちにとって、医療についての知識や経験がほとんどなく、「将来どのような医療者を目指すのか」「何のために大学で勉強するのか」などの点で学ぶ点は大きいと考え、本年度もコロナ禍で何ができるかを考えながら昨年度からの改善を目指して実施しました。

早期体験実習では、①自分の目指す医療者への理解、②医療での多職種連携への理解、③患者の視点からの医療への理解の三点を柱としています。病院に伺うという手段はとれませんでした。たくさんの病院、たくさんの職種の方々の協力を得て、医療現場や医療プロフェッショナルたちの仕事にビデオやZoomでの対話を通じて触れることができました。そのなかで医療者としてのやり甲斐と厳しさを理解し、今後の学部生活でどのような医療者を目指し、何を学ぶべきかを掴んでくれたと思います。

病院やクリニックの医師をはじめとする職員の皆さまには、コロナで大変な困難のなか、新入生のためを思っていただき、ビデオの準備やオンラインでの語りなどきめ細やかなご指導をしていただきました。ご協力に、改めて深く感謝致します。

2024年3月

医学教育・国際化推進センター

片岡 仁美

昨年も、医学部人間健康科学科の学生を、早期体験実習に受け入れて下さり、心より感謝申し上げます。COVID-19は一応5類感染症に移行しましたが、感染流行の脅威は払拭されてはならず、そのようなご多忙の中、実習を行っていただいた医療機関の皆様、医学教育・国際化推進センター関係者の皆様に、御礼を申し上げます。

医学部人間健康科学科では、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士といった医療専門職に加えて、医療研究を行う人材を養成しております。このため、学部生の初期の段階で臨床現場を垣間見ることができることは、その後の学部教育へのモチベーションにつながるだけでなく、将来目指す医療人について考える良い機会になります。最近ではビッグデータサイエンスなどのデジタル化した医療が出現しており、患者さんとフィジカルに接しない医療スタイルも出てまいりました。将来そういった方向に進む学生も、実際の医療現場を見ているのと見ていないのでは、デジタルデータを扱うときの視点に大きな差を生じます。

また医学部医学科、薬学部と合同で行うことは、多職種連携の必要性を肌で感じ、自分自身の専門職への誇りを持つことにつながります。どうしてもそれぞれの学科、学部で行われる教育は考え方が画一的になり、疾病を見る目も一方向性の見方しかできなくなります。他の医療専門職の考え方や手法を学び、そのうえで意見をいうことは、疾病に対する多方向からの視点を養い、自分の進む専門職のプロフェッショナル意識を醸成することに役立ちます。

学生の皆さんが、他では得がたい貴重な体験をさせていただいたことを、本誌を拝見して改めて強く感じました。このような機会を実現していただきました関係各位に、心より御礼を申し上げます。

2024年 3月
人間健康学科長
青山朋樹

京都大学薬学部では、早期体験実習の一環として、1年次夏季に「多職種連携医療体験実習」を実施しています。

「多職種連携医療体験実習」では、以下の3つの目的を掲げています。

1つ目は、医療機関における実習を通じ、患者とコミュニケーションを取ることで患者の視点から見た医療、病院とは何かを理解することです。これから薬学を学び薬剤師や創薬研究者となる上で、医療現場を知り患者側の立場に配慮できる心を養い、医療に関わる一員としての自覚を高められることを期待しています。

2つ目は、社会における薬剤師の役割や職能を体験的に学び理解することです。医療現場で薬剤師が抱える課題や問題点を知り、将来の薬剤師のあり方やこれからの学びの目的と対象を考えるきっかけになることを期待しています。

3つ目は、医師や看護師の職能と役割について、観察やインタビューを通して知り、多職種が連携してどのように医療を支えているかを理解することです。他の医療者の視点を感じ、チーム医療の中で薬剤師が担うべき役割や習得すべき能力とは何かを考えることを期待しています。

実習後には、医学部医学科・人間健康科学科の学生と合同で「事後ワークショップ」を開催します。事後ワークショップでは、学生同士が実習先での体験について意見交換を行い、上記3つの目的についての一層の理解を育んでいます。他の医療系の学生との協同作業は、様々な職種・部署から成り立つ医療現場や製薬企業など将来の活躍の場で、異分野・異業種による創発的な議論の進め方を考える第一歩にもなっています。

2023年度は、3年ぶりに医療現場での対面実習が再開しました。コロナ禍で拡充された医療現場の動画や、対面実習との選択で実施されたZoomオンラインセッションを通じて、多くの医療機関の先生方から学生の教育・指導を頂きました。お蔭様で、学生は医療機関の先生方にふれあい、多くのことを感じ学ぶことができました。先生方の献身的なご支援とご厚情に深く感謝申し上げます。

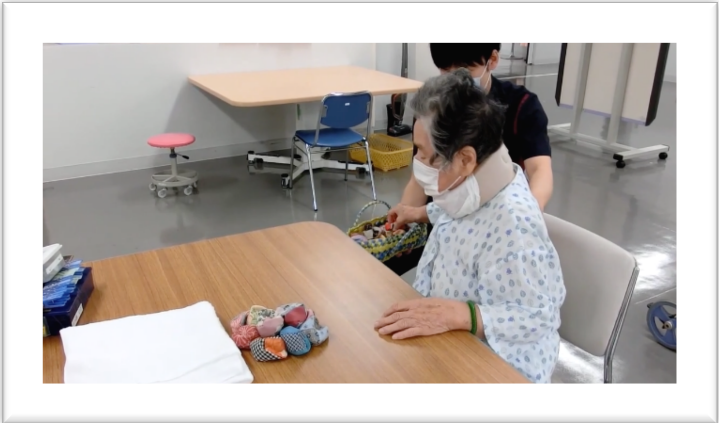
2024年 3月
京都大学大学院薬学研究科長
竹本佳司



10:00
看護ケア
清拭・おむつ交換
口腔ケア・



血液検査部門では、医師と血液像を見たり、マルク（骨髄像）を一緒に読んだりしています。



2. 早期体験実習の目的と概要

本実習は、旧「外来患者支援ボランティア実習」を改編して2013年度から行われていたものであり、京都大学医学部医学科及び人間健康科学科、薬学部の一回生を対象としています。今年度は、医学科115名、人間健康科学科3名、薬学部10名が参加し、全国の27の病院のご協力をいただき、実習をさせていただきました。今年度から、医療機関における対面実習を再開し、多くの学生が医療現場での見学や体験を通して学ぶ実習となりました。

今年度の早期体験実習の目的は、次の3つにあります。

1. 医療者の仕事を理解する

自分が目指す医療者の仕事について、自分で調べたり、見学したり、様々な病院の医療者からのメッセージをもとにして、どのような医療者・研究者になりたいかを考えます。

2. 医療における多職種連携を理解する

学生は、将来医療者として協働する他職種がどのような仕事をしているのか、どのようにしてチーム医療に取り組んでいるのかを理解することを目指します。このことを通して、自分が目指す医療者に何が求められているのかも掴むことを目指します。

3. 患者の視点から、医療・病院を理解する

社会や患者の視点からみた医療・病院とは何かについて、興味や問題意識に沿って調べたり、医療現場を観察したり、他の学生との対話を通して深めます。

これらの目的をもった実習を通して、学生には、高校生から医療専門職者の卵へと「移行」してもらうこと、すぐれた医療専門職者になるためにはどのような学習・成長が自分には求められているのかを、実感として理解してもらうこと、を期待しています。

以上の目的及び意図をもつ本実習プログラムは、次ページにあるスケジュールに沿って進められます。「事後ワークショップ」などの機会に、医学科・人間健康科学科・薬学部の学生が「多職種グループ」を編成して、実習を通して得たことや考えたことを共有し、上記3つの点について理解を深められるように工夫しています。

早期体験実習スケジュール

5月	第一回 事前ガイダンス (実習目的の共有、「私の実習目標」の作成)
6月-8月	自己学習 (「私の実習目標」に関連したテーマについて調べる)
7月	第二回 事前ガイダンス (動画視聴の案内、医療者への質問の検討)
7月-8月	医療現場の動画による学習 (各医療職やチーム医療など 40 本の動画を視聴)
8月-9月	1~2 日間の見学・体験実習 or オンライン (zoom で医療者との対話や質疑応答) での実習の実施
9月末	事後ワークショップ <ul style="list-style-type: none">• 課題レポートを持参し、グループで成果発表• チーム医療についてのグループ・ディスカッション

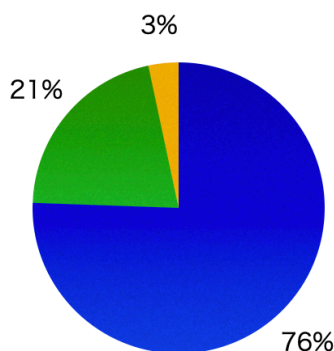
3. 学生による実習プログラム評価

(2023年9月26日実施 授業評価アンケートから)

1. 実習全体を通して、今回の実習は、あなたの学びにとってどれくらい有意義でしたか。

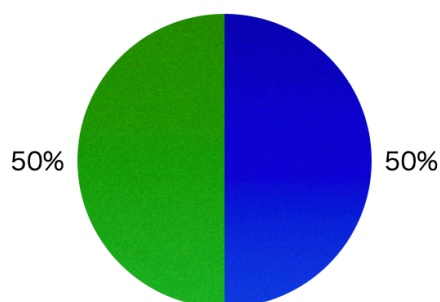
【見学・体験実習】

- とても有意義だった
- まあまあ有意義だった
- あまり有意義ではなかった
- 全く有意義ではなかった



【オンライン実習】

- とても有意義だった
- まあまあ有意義だった
- あまり有意義ではなかった
- 全く有意義ではなかった



【概要】

見学・体験実習、オンライン（Zoom）実習ともに、大半の学生が有意義だったと振り返っていました。実際に見学をして、医師の視点、他職種の視点、患者の視点などを通して、医療現場の実際や今後の働き方・キャリアについて考える機会になったと多くの学生が指摘していました。

- ✓ やはり実際の医療現場を見ることができたのが大きいです。普段は患者の立場で見ている診察室も違った視点で見ることができ新たな発見がありました。
- ✓ 今まで救急医が実際にどのような仕事をしているのかははっきりとイメージを掴めなかったが、今回の実習である程度業務内容や難しさを知れてよかった。
- ✓ たまたま実習の時期が安定した患者さんが多い時期で科が時間的に余裕があったので医療の実際を見ることはあまりできなかったものの、その分先生のお話を多く聞いたため。
- ✓ なかなかイメージのつかなかった医療者側からみた医療現場について知ることが出来たか

ら。

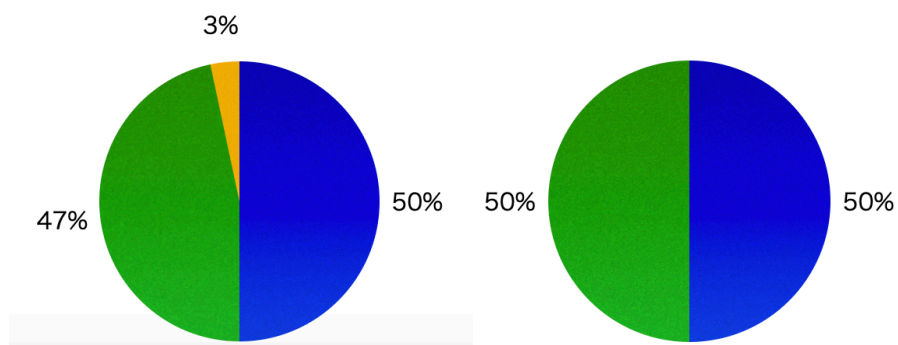
- ✓ 一回生の専門的な医学知識のない状態で直接病院の見学が出来ることが非常に貴重な経験で今後の進路選択に大きく役立つと思うから。
- ✓ 医師以外の医療者の話をこれまで聞く機会がなかったので、貴重な体験ができたから。
- ✓ 別の病院では全く体制が違うのがわかったり、別の分野に興味がある人との交流は自身の視野を広げるものがあった。
- ✓ 実際に病院に行って医療従事者と交流したり医療行為の様子を見たり出来たし、事後ワークショップでは医学科の人と意見交換できたから（薬学部）
- ✓ 普段は見られない病院の裏側を見ることができた。薬剤師になろうかどうか迷っていたので今後の進路を決める上で非常に有効だった。（薬学部）
- ✓ 実際に理学療法士がどのように働いているのか知る機会は今までなかったので、具体的なイメージを持つことが出来た。（人間健康科学科）
- ✓ 他職種について具体的に知れた。病院内だけでなく病院外の施設も見学でき、この経験は臨床に出た時に役立つそうだったから。（人間健康科学科）
- ✓ 実際に医療者の方に話を聞く機会はなかなかないし、今まで疑問に思っていたことを質問して解決できたから。（オンライン）

2. 病院での見学・体験実習/Zoomセッションにはどのくらい積極的に参加できましたか？

【見学・体験実習】

【オンライン実習】

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ● かなり積極的に参加できた | ● かなり積極的に参加できた |
| ● まあまあ積極的に参加できた | ● まあまあ積極的に参加できた |
| ● あまり積極的には参加できなかった | ● あまり積極的には参加できなかった |
| ● 全く積極的には参加できなかった | ● 全く積極的に参加できなかった |



【概要】

多くの学生が実習に積極的に参加できたと回答していました。初めての实習でもあり、興味を持って取り組めたようです。様々な診療科や部署の見学を組む、質疑応答の時間を設ける、研修医のシャドーイングなどが、学生にとっての主体的な学習につながっていたようです。

- ✓ 2日あったのでほとんどの場所を見学させてもらった。
- ✓ 医師の方が様々な科を回らしてくれたから
- ✓ 病院の方々がひとつひとつの内容をじっくり見せてくださったから。
- ✓ 参加者が1人であり、病院の方には総出で歓迎して頂いたから。また、自身の興味がある分野をみて、時間割を組んでくださったため、深めやすかったから。
- ✓ 病院の先生方がとても優しく接してくれたため、質問などしやすかった。
- ✓ 病院の方々が質疑応答の時間を取って下さったが、そこで何個か質問することが出来たから。
- ✓ ついて行った研修医の方が専門的なことを噛み砕いて教えてくれたから。
- ✓ 研修医たちがほぼ常に僕達の側で案内をしてくださったから。

- ✓ 病院内でよく知っている職種からあまり意識したことの無かった職種までがどのように連携を取っているのかを解説してもらえたから。
- ✓ キャリアについての質問などができたから。
- ✓ 質問対応をくださった方々が優しい雰囲気でありとても話しやすかったが、一方でオンラインであることによる意思疎通の難しさもあったから。(オンライン)
- ✓ 自分が疑問に思っていたことを実際に質問して、学びを得られたから。(オンライン)

- ✓ 緊張してうまく話しかける事ができなかった。
- ✓ 医学に関する知識が足りず、積極的な質問などができず、受動的に話を聞くことが主になってしまったから。

3. 病院に協力いただいた実習を通して、その内容や対応で良かった（勉強になった、興味深かった）と感じたこと、よくなかったと感じたことや改善点は何でしたか？

【概要】

よかったこととしては、様々な現場（手術、外来、回診、カンファレンス、薬剤部、地域の関連施設など）の見学、医療知識があまりない1回生に配慮した説明、医師や他職種の1日や働き方がわかるようなシャドーイングについて多く挙げられました。改善点としては、スケジュールと実習内容の明確化、様々な現場の見学、患者さんへの治療や説明場面の見学、休憩時間や休憩場所への配慮などが主に挙げられていました。

- ✓ 様々な現場を積極的に見せていただいた
- ✓ 何がしたいか、どういうものが見たいかを詳しく聞いてくださったり、今何をしているのか、などの説明も逐一してくださったりして勉強になった。
- ✓ 手術を間近で見ることができたこと。
- ✓ 実際に患者さんと関わる方がどのように考えているのかを知れたこと。
- ✓ 複数の診療科で対応していただいたこと。また一回生の私たちにもわかるように噛み砕いて説明していただいたこと。
- ✓ 多くの診療科を見れたこと
- ✓ 回診や外来診療について行かせていただいて、医師と患者さんのやりとりを見ることができてその様子が印象に残りました。
- ✓ 薬剤師や看護師など、自分が将来ならない職業の方目線の話も聞けたこと。
- ✓ カンファレンスの様子や他の医療従事者との連携
- ✓ チーム医療として、看護師、医師、薬剤師などと連携をこれだけ密に取れているのだというのを初めて目の当たりにして実感できたこと。
- ✓ 回診の際に看護師さんや患者さんとの細かなコミュニケーションを見られたこと。
- ✓ 緩和ケア病棟で患者さんと医師とのコミュニケーションが見学できたことが良い経験になったと思います。
- ✓ 病院の色々な施設だけでなく連携している地域の関連施設を見ることができた。
- ✓ 研修医の先生の親切さ
- ✓ 二日間現場に付きっきりだったので、医師の一日がよく分かった
- ✓ 医師の働き方を詳しく説明していただいたこと
- ✓ キャリアの相談ができたこと。
- ✓ ドクターヘリに乗せてくださったり、患者さんのすぐそばで治療の様子を見ながら、その

内容を解説してくださったこと。

- ✓ 医療現場での「実は」というような理想と現実のギャップを説明してもらえたのが大変興味深かった。普段の大学での学習や医療に関する表向きの情報ではあまり説明されない部分を学べるのが本実習の最大の魅力であるし、それを学べたのが非常に有意義だった。
- ✓ 薬剤部だけでなく医師にも話を聞いたり仕事を見る機会があったことで、チーム医療の中の薬剤師のイメージを掴むことができた。(薬学部)
- ✓ 実際に調剤を経験できたこと。(薬学部)
- ✓ 医師の方だけでなく、他の職種の方にもお話をきけたこと。(オンライン)

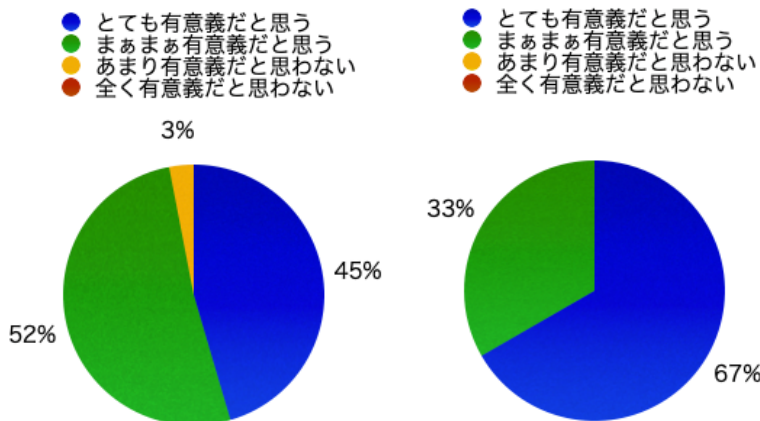
- ✓ 京大側と病院側とで受け入れの際に少し認識のずれがあったこと。
- ✓ 病院側が、学生に何を紹介したらいいか迷っているように感じました。また、1回生というほとんど医療知識のない相手に説明するのはとても難しそうだったので、少し申し訳なかったです。
- ✓ 多分ですが医師には実習生たちの学年の情報が伝わっていなかったのではないかと感じました。かなり専門的なことを説明してきた先生がいたので。
- ✓ 実習内容（何をするか、どれくらい時間がかかるか）を事前に知れたら良かった
- ✓ 病院の人も忙しいとはおもうが、実習のスケジュールがほとんどきまっていなかったのは気になった。
- ✓ タイムテーブルがはっきり決まっておらず、何を見学すればよいかわからない時があった。
- ✓ できれば、実習の細かいスケジュールなどを決めてくださると有難かった。
- ✓ 朝の集合時間が少し早すぎるように思いました。
- ✓ 終わる時間がわからない。
- ✓ 早く終わってしまった。
- ✓ 実習時間が少し長く、集中が少しもたない時があった。
- ✓ 強いて言うなら、実習期間が2日間あればもっと良かった。
- ✓ 予定表に総合案内とあったので、案内してくれるのかと思ったら、総合案内の見学のことだったのにはびっくりしたので、その点がわかるよう予定表に書いていただけたらありがたかったです。
- ✓ 時期的に仕方がないことではありましたが、安定した患者さんが多く実践的な場面を見ることができなかったことは残念でした。
- ✓ 救急科だったので、患者が来ないと何もすることがない時間が多かった
- ✓ 特に何もすることがない時間が多かったこと。
- ✓ 少し手持ち無沙汰な場面もあったが充実していた

- ✓ 無駄な時間が多くもう少しコンパクトに実習の時間を短くしてほしいかったです
- ✓ 手術を見る時間が大半であったので専門的なことが多かったように感じた
- ✓ 説明が多かったので実際に見せていただくのを増やしてくれると面白くより一層真剣に取り組めると思いました。
- ✓ 診察の様子も見てみたかった。
- ✓ もう少し治療の側面を見学したかった
- ✓ 患者さんと接する際に、事前に患者さんに実習生の存在を紹介していただけるとお互いに安心して見学できると思います。
- ✓ カンファレンスが専門的すぎた
- ✓ 専門知識をいっぱい言われるとあんまりわからなくなってしまうこと
- ✓ 興味深い話が聞けたが、もう少し「医師」の話をして欲しかった。募集の段階では消化器内科とあったのに、実際に受けるとほぼ薬剤師の話だったのは少しがっかりだった。
- ✓ 医療従事者同士の連携不足が見られた。
- ✓ 昼ごはんを1人で食べることになったこと。他の病院に行った学生は研修医などと食べたようだった。
- ✓ 1日目の休憩時間が昼休み以外なかったこと。
- ✓ みんながリラックスできる場所がもっと欲しかった。
- ✓ 立つ時間がかかなり長いので、運動靴で来られるようにしていただけると助かります。もしかしたら病院の方からは靴については指定していなかったかも知れませんが……
- ✓ オンライン実習で一人一つしか質問ができなかったこと。(オンライン)

4. 受け入れ医療機関からのフィードバック

4-1 本実習（動画視聴+Zoomセッション）は学生にとって有意義だったと思いますか？

【見学・体験実習は有意義か】 【オンライン実習は有意義か】



- ・ 1 回生とのことで病院全体の流れ、多職種との関わり（チーム医療）を学んでいただけたこと。
- ・ 市中病院の医療現場の雰囲気を伝えられたと思う
- ・ 学生さんが病院の現場に触れて、目を輝かせておられる様子が印象的でした。
- ・ 知らない職種や多数の人で成り立っていることを知ってもらえたと思っています。
- ・ 様々な部署で様々な職種から説明があったため
- ・ 実際に病院を訪れることで雰囲気もわかりますし今後の学習や将来像をイメージしやすくなったと思うため。
- ・ 現場の声や雰囲気を実際に学生たちに体感いただき、医療従事者としての心構えを養っていただく機会になると思われます。
- ・ 対面によりコミュニケーションの大切さを学べるため。
- ・ 医療機器、診断画像への興味の有無によって学生からの質問数が違った。ただ、普段接する機会が少ない職場見学ができてよかったのではないかな。
- ・ 今回、RCT チームラウンドがあり、多職種チーム医療についても見学してもらえたため。アンギオも見学してもらえ、医師からの説明も受けてもらえ、興味深かったと学生の方から回答をもらえたため。

- ・当院の事情で緩和ケア科のみの見学となり、急性期病棟など他部署を案内できなかったため。
- ・私たちの話す言葉が全く意味不明でありかつ、全くの異文化の中に入って戸惑っているだけでした

4-2 本年度の実習の良かった点をお答えください

- ・研修医による当院の診療科の紹介・説明の他、医療行為を見学いただけました。
- ・様々な部署を見学してもらうことで、それぞれの役割や連携を見ることができたので、病院で働くことを想像してもらえたのではないかと思います。
- ・救急外来、ICU、ドクターヘリ、ドクターカーを実際に見ていただいたことは、救急医療のイメージをもっていただく上で非常に良かったと思います。
- ・実際に調剤の一部を体験してもらったり、多くの薬を扱っている現場を見てもらえた点。学生の反応がわかりやすかった点。
- ・放射線部の機器や概要の利理、放射線診断科医師や各医学専門医師から診断に対する考え方を学ぶことができ、良かったのではないかと。
- ・偶然ではあるがチーム医療として RCT ラウンドを見学してもらえた。
- ・従来の5日間から2日間に短縮されたのでお互い集中して取り組むことができた。
- ・1日という期間の受入だったこと
- ・1日に集中していたので、密度の高い内容になりました。
- ・数年ぶりに対面実習が再開できたことは良かったと思います。

4-3 本年度の実習の改善点についてお答えください

- ・病院が初めてという学生が多かったので、もう少しわかりやすく説明する必要があったかもしれないです。
- ・当院の改善点ですが、時間の都合で病院概要などをしっかりと説明できず、唐突に講義が始まってしまったので、学生さんにがどのような病院なのかをある程度イメージできるように、事前に当院の概要資料などをお送りすべきだったと反省しております。
- ・HCUの実習においても担当医師がいてくださる方がよい。(医師の立場からの説明も聞いてもらえるし、質問事項もあるだろうから。)

【コメント】医学知識がない1回生という前提で、専門的なことというよりは、医療や看護に関する基本的なこと、病院や診察における仕組みなどを説明いただけますと幸いです。

- ・ 外来見学の患者の3人目で眠られていました。見学を中断としました
- ・ 学生により、取り組みの姿勢の違いが、以前より大きいように思いました（たまたまかもしれません）
- ・ 事前に学生のニーズを知ることができればもう少し希望に沿ったアレンジができると思う。
- ・ なにか具体的に経験しておきたいことが事前に分かっていたら（アンケートなどで）もっとやりやすかったです。また、大学側から、学生に対して経験させておきたいこともあればよかったです。
- ・ レポート等の課題もなく、ほぼ見学のみと思われます。
- ・ 自分自身の時間配分がうまくできず、学生さんに申し訳なかった。

【コメント】 学生により、学習の準備や心構えができていない者がおり、ご迷惑をおかけして申し訳ございません。事前ガイダンスなどで今後も実習に臨む姿勢については注意してまいります。学生のニーズは、実習目標を各自に書かせてそれを共有するようにはしておりますが、実習先が決まった段階で、改めて学生から実習先に学びたいことなどを伝えられるようにします。また、実習のモデルプログラムも明示するようにいたします。

- ・ 受け入れ部署間のスケジュール調整
- ・ 日程調整の仕方が複雑でややこしかったのもう少し完結明瞭になればと思います。また、提出物が未提出の方がいたり、欠席連絡が実習開始時間を大幅に過ぎてもなく、実習終了の1時間ほど前に連絡がありました。大学入学半年で未熟なところがあるのは理解できますが大学側が予めもう少しフォローに入ったりしても良かったのかなと思います。最後に代表の学生さんがいましたが、提出物や実習時間等上手く連携が取れていなかったのもそのあたりも改善されるといいなと思います。
- ・ リーダーからうまく情報が伝わっていないことがあり、一部の学生が集合時間と場所で混乱していました。（こちらも初めの情報から変更があったのですが…）全体のリーダーよりは5年生と同じようにペアのリーダーで連絡をやりとりした方が確実かなと思いました。
- ・ もう少し日数があっても良かった
- ・ 初めにいただく学生一覧はフリガナ、性別の記載が欲しい（更衣室などの用意があるため）

【コメント】 数年ぶりの対面実習再開にあたり、受け入れ病院数や部署数の把握や日程調整が煩雑になりご迷惑をおかけいたしました。来年度は、病院側で日程を組んでプログラムや日程をなるべく固定していただき、学生がその中から選択するという形を考えています。また、学生代表は、実習日が同じ班ごとに選出するようにいたします。

5. 実習プログラム案

本実習の目的及び学生のニーズをふまえた実習プログラム案として、一例を示します。内科系の実習、外科系の実習、看護師、薬剤師、その他の医療職に関する内容、様々な部署の見学があると望ましく、実習プログラムを組む際の参考にしていただけますと幸いです。

実習期間：3日間

	1日目	2日目	3日目
午前	9時-10時 ・オリエンテーション ・病院紹介 ・実習目標の確認 10時-12時 ・病院見学（医事課、栄養部、検査室、地域連携室、病児保育室など）	9時-12時 ・看護部の見学 ・看護師のシャドーイング ・患者の話を聴く ・介護体験（外来患者受付サポート、車いす介助、食事サポートなど）	9時-12時 ・研修医/医師のシャドーイング ・回診見学（外科） ・救急外来見学
午後	13時-16時30分 ・研修医/医師のシャドーイング ・外来見学（内科） ・回診見学（内科） ・カンファレンス見学 16時30分-17時 ・振り返り ・本日の学習成果のプレゼン ・質疑応答	13時-16時30分 ・薬剤部の見学 ・薬剤師のシャドーイング ・PT/OT/STの業務見学 ・診療放射線技師の業務見学 ・臨床検査技師の業務見学 ・チーム医療の見学 16時30分-17時 ・振り返り ・本日の学習成果のプレゼン ・質疑応答	13時-16時30分 ・研修医/医師のシャドーイング ・手術見学 16時30分-17時 ・振り返り ・実習全体の学習成果のプレゼン ・質疑応答

※遠方の医療機関の場合、初日の実習開始時間を13時にするなど変更ください。

6. 協力医療機関一覧

No.	所属病院	実習日数	受入人数
1	医療法人社団 淀さんせん会 金井病院	2日間	6
2	京都医療センター	2日間	9
3	京都桂病院	1日	4
4	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	1日	6
5	公立豊岡病院組合立豊岡病院	2日間	5
6	高槻赤十字病院	1日	1
7	国家公務員共済組合連合会枚方公済病院	1日	6
8	済生会野江病院	1～2日	5
9	三菱京都病院	1～2日	2
10	市立岸和田市民病院	1日	2
11	市立大津市民病院	1～2日	7
12	市立長浜病院	1日	2
13	滋賀県立総合病院	2日間	3
14	神鋼記念病院	1日	3
15	杉田玄白記念公立小浜病院	2日間	1
16	静岡県立総合病院	1～2日	4
17	大阪赤十字病院	2日間	4
18	大阪府済生会茨木病院	1日	1
19	大津赤十字病院	1日	3
20	丹後中央病院	2日間	1
21	天理よろづ相談所病院	1～2日	6
22	島田市立総合医療センター	1日	4
23	日本パプテスト病院	2日間	3
24	日本赤十字社和歌山医療センター	1～2日	3
25	北野病院	2日間	6
26	洛和会音羽病院	1日	5
27	【オンライン】大阪府済生会茨木病院	1日	7
28	【オンライン】高松赤十字病院	1日	9
29	【オンライン】京都桂病院	1日	10

編集後記

今年度は、新型コロナウイルスが5類感染症に移行した中での実習の実施となりました。当初、昨年度同様のオンライン実習を原則とし、希望者のみ現地での対面実習という形式を想定していましたが、多くの学生が対面実習を希望し、実際に多くの医療機関のご協力を得て、希望した学生全員が現地での見学・体験実習を行うことができました。数年ぶりの対面実習の再開ということで、医療機関の皆様には受け入れ準備、実習日程の調整、実習の実施や指導にあたって、多くのご負担をおかけしたと存じますが、改めて感謝申し上げます。

今年度は、1～2日間での見学・体験実習ということで、従来の5日間の実習からは短い期間での対面実習の再開といたしました。この数年間のオンライン実習時に提供いただいたオンデマンド教材なども活用して事前学習を行うことで、短い実習期間でも学生は多くの学びを得たことが伺えます。やはり百聞は一見にしかずで、学生の報告や感想からも、実際の医療現場を観た喜びや学びに関する生き生きとしたコメントがありました。

来年度は、今年度の実習の良かった点を踏まえつつ、対面での実習期間をより長くし、様々な診療科、様々な職種の現場に触れられる実習となりましたら幸いです。いつも多大なご協力をいただいておりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2024年 3月

京都大学医学教育・国際化推進センター
京都大学医学部人間健康科学科
京都大学大学院薬学研究科

